山門は間口８ｍ、奥行6.2m（４間２尺×３間２尺）高さ3.6ｍ（１間２尺）の白壁作り黄檗風といわれ、絵に見る龍宮のような楼門の上に間口6.2ｍ、奥行 4.24 ｍ、高さ7.87m、（３間２尺×２間２尺×２間６尺）の楼閣があり、大般若経 600 巻が納められ般若閣とも称された。その後18世恵秀亮光和尚（明治24年11月寂）によって楼閣に養蚕神が祭られ蚕養山常泉寺と山号が改められた。その後、昭和46年に山号は巌松山と再度改められた。

常泉寺　山　　門

常泉寺　山門の赤銅の龍

町飯坂村（旧川俣町）宮町に生まれた関義則は彫金師として江戸で名を挙げ、浅草寺や泉岳寺の山門に大作の龍を掲げたが、関家の菩提寺である常泉寺の山門にも同じものを掲げようと、町小綱木村（旧川俣町）菅野与右衛門らの尽力により製作の運びに至った。しかし、明治３年11月、義則が東京で没したため遂に未完成に終ったが、作品の赤銅の彫金龍はそのまま東京から運ばれ、山門の天井に掲げられたという。なお、関義則筆の下絵が同寺に保存されている。

## 小松倉百庚申

〔所在地〕　川俣町大綱木字小松倉山８番地

小手五岳第一といわれた口太山の麓、大綱木の中央を走る国道 345 号線の東に、村の人たちの昔からの信仰の山であった小松倉がある。その北麓には「小手風土記」に記されている小松